

帯広市男女共同参画情報誌

カスタネット

Vol.45 2023.2

第21回 ^{ひとひと} 女と男の一行詩 最優秀賞作品 / 手伝うよ 違うよ、あなたも 主人公



特集

ジェンダーを考える

帯広市パートナーシップ制度が始まりました

第21回「女と男の一行詩」入賞作品発表

推進員だより

バックナンバーは
こちらのQRコードから
読むことができます



「カスタネット」とは…2枚の丸い木が合わさり音が出る楽器から、女性と男性が共に歩むイメージを表現したものです。

ジェンダーを考える

～日常の無意識バイアスから世界の動きまで～

令和4年10月10日（月・祝）、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授 治部れんげ氏を講師に迎え開催した男女共同参画セミナーの概要をレポートします。

○日常に潜むジェンダーバイアス

ジェンダーバイアスとは、社会的・文化的性差別、または性的偏見という意味で、男女の役割について差別や偏見を生み出す無意識の固定観念のことです。

ジェンダーについての講義を10時間くらいした後、講義を受けていた男子学生に「料理は女性に向いている家事ですよね。」と言われ、何のための講義だったのかと思ったことがあります。20年前のことですが、私が取材に行った先で「女の記者さんですね！」と驚かれたこともありました。また、訪ねた会社で、男性と女性が現れたら、男性の方が社長だと思いつつもありませんでした。

私たちは他人のジェンダーバイアスには気付きますが、自分のことにはなかなか気付かないものです。もし指摘してくれる人がいたら、それを受け入れる柔軟さが大事です。



○ジェンダーの視点が必要なわけ

学生に今までの人生を振り返り、性別による押しつけを体験したり、見聞きしたりしたことがあったか尋ねてみると「兄や弟には家事をやらせない」「女の子は無理に勉強しなくてもいい」「実験器具の配置など男性の体格に合わせている」「ピンクや綺麗な色が好みの男性は変人扱いされる」「男はしっかり稼がないと」「男は理工系」など上げられました。この様にジェンダーバイアスが個人の選択を阻んでしまっておそれがあるのです。

○世界の中の日本：146カ国中116位

世界経済フォーラムが行っている4分野でのジェンダーギャップ指数ランキング（2022）の結果を見ると、「政治139位」「経済121位」「健康63位」「教育1位」となっています。政治の分野では議員や大臣に女性が少ないこと、経済の分野では企業での女性管理職の割合が少ないこと、男女の賃金差が大きいことが順位を下げている理由としてあげられています。

○巨大な機関投資家も動く

令和2年12月、日本の年金積立金を管理運用するGPIFは、新たに「ジェンダー」に着目して投資先を決めるため、ジェンダーダイバーシティ指数（女性も男性と同じくらい活躍できている企業であるかという視点）を運用の指標とする基準のひとつとして採用しました。女性活躍推進に積極的に取り組む企業の行動原則である国連女性のエンパワメント原則に基づき、企業に情報開示を求めています。

○男性が育休を取れる社会に

家庭内では、男性が長時間労働により家庭参加できず、育児等の負担が女性に偏ってしまうという問題があります。

「令和3年度雇用均等基本調査（厚生労働省）」によると、男性の育児休業（以下育休）取得率は13.9%ですが、100%を達成している企業もあります。

積水ハウスでは、3歳未満の子を持つ男性従業員を対象に、1カ月以上の育休の取得を推進する「イクメン休業制度」があります。「最初の1カ月は有給」「4回に分割して取得可能」などのしくみで男性社員を後押ししています。

このような育休を取得しやすい環境整備に社会全体で取り組む必要があります。

○男女共同参画をどう進めていくか

どの分野でもそうですが、会議等のメンバーはできるだけ違う構成メンバーにする必要があります。あて職で就任するなど、男女共同参画についてよく知らない人が就任するのも良いと思います。

また、皆さんが声をあげる手段として、パブリックコメントを活用するのも良いと思います。他にも、私がアドバイザーを務めている国際女性会議WAW!には、世界の様々な地域、国際機関から女性の分野で活躍するトップリーダーが参加し、日本及び世界における女性のエンパワーメント、女性の活躍促進のための取組について議論を行っています。公開フォーラムで一般参加者を募集することもありますので、このような機会を活用してみたいかがでしょうか。



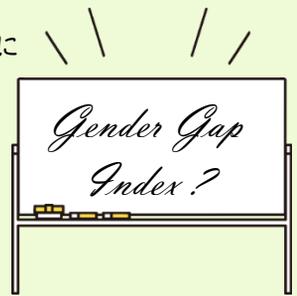
じぶ
講師 治部れんげ氏

東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授。日経BP社にて経済記者を16年間務める。著書に『稼ぐ妻 育てる夫：夫婦の戦略的役割交換』『炎上しない企業情報発信：ジェンダーはビジネスの新教養である』など

「ジェンダーギャップ指数」とは

世界経済フォーラムが2005年から毎年発表している各国の男女格差を示す指数をいい、次の4つの分野14項目で、国際機関が発表するデータを基に男女格差の度合いを指数化し、各国の順位を決めています。

- (1)経済活動の参加と機会（給与、雇用数、管理職や専門職での雇用における男女格差）
- (2)教育（初等教育や高等・専門教育への就学における男女格差）
- (3)健康と寿命（出生時の性別比、平均寿命の男女差）
- (4)政治への関与（議会の閣僚など意思決定機関への参画、過去50年間の国家元首の在任年数における男女差）



ジェンダーギャップ指数ランキング（2022）の総合結果

👑1位アイスランド 👑2位フィンランド 👑3位ノルウェー

北欧諸国が上位を占めている中、日本は146カ国中116位と経済協力開発機構（OECD）諸国のなかでも特に順位が低く、女性が活躍できる社会づくりを世界から求められています。

パートナーシップ制度が始まりました！

○パートナーシップ制度とは

本制度は、婚姻関係にはないものの、継続的に共同生活を行う同性カップルなどの2人の関係を帯広市が受け止め、公的に認める仕組みです。

帯広市は道内5例目として、令和4年12月1日より運用を開始しました。

○この制度で何が変わるの？

法的効力はありませんが、当事者の安心感や、社会的な理解を広げていくことを目指しています。また、パートナーが配偶者や家族と同様の行政サービスが受けられたり、住宅購入時のペアローン利用など民間サービスも広がってきています。

○二つの制度から選択できる

◆**証明制度**：当事者間で公正証書などの形式で契約を締結し、これを市が確認した事実を証明します。

◆**登録制度**：契約書などは不要で、要件を満たす2人を登録した事実を市が証明します。

○制度の詳細は

HPをご覧ください



ひと ひと
第21回「女と男の一行詩」

入賞作品発表

「女と男の一行詩」とは、形式のない川柳のようなものです。「女性の活躍」「仕事と生活の調和」など、男女共同参画をテーマに作品を募集しました。

今回は、335名723作品のご応募をいただき、一般投票と選考委員による審査の結果、入賞6作品が決定しました。

【講評】

選考委員長 岡庭 義行
(愛国学園大学教授)

今年度の選考を通して、私たち選考委員が感じたことは、身近な何かに「気づく」ということでした。最優秀賞作品「手伝うよ 違うよ、あなたも 主人公」にある「手伝うよ 違うよ」という言葉に、私たち選考委員は、大きく心を揺さぶられました。続いて「あなたも主人公」と語りかけられたとき、はじめて私たちは、従来の性別役割分業のあり方を見つめなおし、男女の協働を考え直すことができたと思います。どうか皆さんのアイデアと工夫で、これからも帯広市の「共生の未来の扉」を大きく開いていかれることを、心から祈念しています。

最優秀賞

手伝うよ 違うよ、
あなたも 主人公

(菊池莉音さん (中学生))



優秀賞



国会に
まだまだ足りない
女性議員

(中野大和さん (高校生))

「男だから」「女だから」
そうじゃなくて「あなただから」

(押切ゆかさん (高校生))



入選

ロッカーに いろんな色の ランドセル (安藤颯斗さん (高校生))

男女でも 家賃は同じ 給料は？ (山崎かえでさん (高校生))

男女共同参画は 子どものためだけでなく 子どもの未来のため (鷲見光紀さん (高校生))

先日、長年来の友人達と集う機会がありました。お互い高齢化しているので、話題は病や年金、孫の話になり「どこも同じだな」と微笑ましく思いながら談笑していると、その中の一人が夫の話を始めました。夫は退職して以来、全ての家事を妻に任せているため、妻が家を空ける時は大変だと話しますが、逆に、税金や保険、車に関する事などは全て夫に任せているとのことでした。推進員の仲間たちと男女共同参画について学び、自立することの大切さに気付く前の私だったら、おそらく彼女と同じ考えを持ち、何の疑問も感じることはなかったことでしょう。長年身についた生活習慣や考え方を変えていくのは難しいことだと思いますが、夫婦の自立に向け、お互いを思いやり、一歩ずつ歩み寄って理解することが大切なことではないかと思えます。



今回は小野詩
が担当です！

帯広市男女共同参画推進員は、市民協同のパートナーとして、帯広市と一緒に男女共同参画を広げるための活動をしています。ここでは、活動の様子やメンバーについて紹介します。

推進員だより

〒080-8670 帯広市西5条南7丁目1番地
帯広市 市民活動課 男女共同参画係
電話 0155-65-4134 FAX 0155-23-0156
電子メール danjyo@city.obihiro.Hokkaido.jp

令和5年2月発行
○発行：帯広市
○企画編集：帯広市男女共同参画推進員
伊藤 容子・浦端 昭道・遠藤 妙子
川尻れえ子・田沼 誠子・沼田 秀実